

保育実習ノートから ③

◆TさんからK先生へ

二月二十一日（火） はれ 年長あお組

○じゃんぼかるたをしている時、子ども達の理解度におどろかされた。本当にとるのが早い。私が本気になっても負けてしまうほどである。取る方でひと通り満足すると、今度は読む方をやっていた。ほとんどつかえずに読める。しかし、ゲームの進行というところまではまだ十分に配慮ができず、自分が読み終ると、カードをまだ取っていないくても、どんだん次を読み出していってしまうことが何度かあった。「教える」のではなく、かるたの様に子どもが

興味を示すあそびを通して楽しく文字が覚えられれば良いなと思った。

○お弁当のあと、こうじちゃん、ようすけちゃん、数人に絵本を読んであげた。「きょうりゅうの話」であるのに、女の子もくいている様子を見ていた。私もそんな子ども達の気持ちに答えたくて、読みながら話しかけたり、わかりやすく説明したりするように努めた。話を聞く真剣な表情を見ると、「本を読んであげる」というところにも静かな子どもとの触れ合いがあるのだ、ということを感じた。

◆K先生からTさん

。自主充実保育の中で、どの子がどの位ことばを理解しているか、数量に関してはどの程度把握しているかを、先生がしっかりとわかっていないと放任保育になってしまいます。三十人いたら三十種類のカリキュラムが必要なわけです。

。絵本を読むのもクラス全体の子を意識して読みます。どの子にも聞こえるようにします。すると、一人、二人と関心を寄せて加わってきます。一人の子どもだけに没頭して読むと、他の子どもものがわかりません。先生を独占したい子は、「絵本を読んでも」と言ってくることもあります。その子も絵本を通して、他の友達と触れ合えるよい機会になります。

◆TさんからK先生へ

二月二十三日（木） 雪のち雨 年長しる組

。お母さんのお迎えを待っているゆきこちゃんとかやとりをした。何度か取り合っているうちに「ゴム」をつくろう、ということになり、教えてあげた、どの程度の興味を示してくるかわからなかったのだが、考えていた以上に一生懸命で、何回も何回も練習して覚えてしまった。あの時のゆきこちゃん嬉しそうな顔は今でも目に浮ぶほどである。子どもが自分から興味を持って取り組んだものには、想像以上の集中力が働くものだ、また子どもが様々な事に興味を持つことができる様な環境設定も大切であると思った。

◆K先生からTさんへ

「自己教育力」が、今更のように叫ばれていま
す。幼稚園のように、低学年も総合教育になると、
その目的も達成されるのではないかと思うのです
が、教育の本筋を見極めたような文に共鳴しまし
た。

◆TさんからK先生へ

二月二十五日(土) はれ おひなまつり会
。今まで何回も練習してきたものが、あつという間
に終ってしまい、ほっとした様な、さみしい様な、
変な気持だった。実際に指導していらした先生方か
ら見れば、ああすれば良かった、こうした方がよか
ったと、反省点があると思うが、子ども達は一生懸
命やっていた、ごっこ遊びの延長でもあるかのよう
にたいして緊張もせずに、舞台上伸び伸びとせりふ
も大きな声で言っていた。私はあまり十分なお手伝

いができなかったが、出番を待つ子どもや終わった
子どもに一言、声をかけるようにした。

。子どもを並べている時に、目が合った子とニッ
コリほほ笑むと、子どもも安心してニッコリしてく
れる、そんな時「言葉はかわしてないけど、目と目
で心が通じたのかな」と思い、嬉しかった。言葉だ
けでなく「みんなを見ていますよ」と言った暖かい
目を常に子ども達に向けていたい、と思った。そし
て今日は何気なく合った目と目だけでも、これか
らは一人一人の目を見つめていきたいと思った。

*

*

*